高齢者介護ホーム

ともの家 だより

平成24年4月　第40号
発行　社会福祉法人ともの家

心地よい介護、安全、安楽な介護実践

～ともの家 介護理念より～

〒790-0101　松山市溝辺町甲 94
【Tel】089-977-8502　【Fax】 089-907-8504
【E-mail】 tomo-home@triton.ocn.ne.jp　【Home Page】 http://www.tomonoie.jp

平成 24 年度の課題

理事長　永和良之助

1999（平成 11）年３月に松山市岩崎町の古い民家を借りて活動を始めてから 12 年が過ぎました。この間に、溝辺ともの家、アンジュールともの家、ともの家この道を建築し、事業収入も当初の５百万円から２億円近くに増えてきましたから、ともの家も事業拡大路線を歩んできたように見えるかもしれませんが、一貫して追求してきたのは、量的拡大ではなく質的飛躍でした。「福祉は人なり」で、志が高く、確固たる社会福祉の基本理念を堅持する職員が一人、二人と増えていかなければ社会福祉事業は継続できないし、地域の公共財にはならないと確信しているからです。

しかし、まだまだ「道遠し」です。介護職員は育ってきましたが、筋金入りの社会福祉従事者はまだ育っていないからです。介護がビジネス化した現在、そのような人材は過去のものとする向きもありますが、介護を通し確固たる社会福祉の基本理念を培った人材でなければ、重い障害を背負った高齢者の人権、人格、生命、健康を護り、支えることはできないというのは、私のこれまでの現場経験の中で得た確信です。

ともの家は現在、30 歳代以下の管理者が２人、主任が３人いますが、今年度は次世代リーダー養成から新たに３人を主任とし、計８名とします。他の若手職員にもそれぞれ役割を与え、責任を担ってもらおうと考えています。若手管理者には筋金入りの社会福祉実践者への成長を、主任には管理者の補佐と、ともの家が定めている「介護理念」「介護の基本方針」「援助のチェックポイント」などの率先垂範を期待しています。年長の管理者、職員にはもう一頑張りし、若手職員が成長する手助けをしてもらわなければなりません。

ともの家は高齢者介護施設ですから職員は介護ができなければなりませんが、職員全員がその仕事の本質は社会福祉実践にあることの自覚と認識を高めていくべく努めていくことを、ともの家の今年度の目標とします。

平成 24 年度　委員会報告

研修委員会

メンバー：委員長　芝田（小）、花崎（この道）、森本（アン）、福田（溝）、松本（小２）

主な仕事：法人内研修の企画・運営

【委員長から一言】

昨年に引き続き、委員長をさせていただくことになりました。スタッフのニーズに合った研修を実施し、学んだことをひとつでもふたつでも現場に取り入れる、振り返りを行う。やりっぱなしで終わらない成果のある研修を目指していきたいと思います。

広報委員会

メンバー：委員長　山岡（小）、篠原（この道）、中川（アン）、高市（溝）、永和里（小２）

主な仕事：ともの家だより制作、ホームページの更新

【委員長から一言】

広報委員歴３年目、委員長に任命され 2 年目となる今年度の目標は、ともの家だより、ホームページのさらなる充実を目指しながら、20 代前半の他委員に引き継ぐことを考えながら進めていきたいと思っています。「広報」の意義や大切さも伝えることができるよう研鑽に励みますので、よろしくお願いいたします。

アクティビティ委員会

メンバー：委員長　古川（小）、福岡（この道）、吉岡（アン）、曽我部（小２）

主な仕事：外出やレクレーションの企画・運営

【委員長から一言】

今年度からアクテビィティ委員長となりました古川です。
皆さんに楽しんでいただけるような企画を考え実行していきたいと思います。
毎年定着するような企画を目指して取り組んでいきますので、よろしく願いします。

地域交流委員会

メンバー：委員長　加藤（この道）、越智（アン）、高岡（小）、野中(溝)、清家（小２）

主な仕事：年 4 回の日曜バザーロビー展の企画・運営

【委員長から一言】

初めての事で、戸惑っていますが皆さんの力をお借りして、なんとかやっていけたらと思っております。ご協力お願いします。

母（白形和子）の小さな旅行

白形 洋

溝辺ともの家に入所している母は、今年(2012) ２月に元気に満 89 歳を迎えました。

しかしながら、私(息子)の顔を見ては自分の弟たちの名が出て私の名が出てこないことが度々ありました。記憶が幼い頃、若かった頃を巡っているのでしょうか。

そこで母の弟たちに会い、兵庫県明石市に所在する両親の墓参りをする一泊二日の旅行を計画しました。片道約３５０kmの自動車旅行になります。年が明けてからは、「暖かくなって体調が良ければ叔父さんたちに会いに出掛けたいね」と話し掛け、雰囲気作りをしました。

遅かった春の気配をやっと感じ始めたお彼岸(3/23)に､お蔭様で母の体調も良く､いざ出発となりました。食欲も普段と変わらず、本場明石焼の熱いのをふうふうほこほこしながら楽しむこともできました。ただ道中の天気が悪く、明石海峡大橋を望む淡路ＳＡで一休みしたのですが、対岸の明石・舞子・須磨の素晴らしい海岸美が霧の中だったのは残念です。

翌日(3/24)は陽が照り、雨が降り、また陽が照るという落ち着かない空模様でしたが、叔父たちと落ち合って無事に墓参りができました。母にとって何年振りの墓参りとなったのでしょうか。その後姉弟双方とも感慨を深め、記憶の様々な糸を手繰っての名残尽きない時を過ごしました。帰路は瀬戸大橋経由です。

母にとっては、様々なことが去来したであろう目まぐるしい２日に亙る自動車の旅、大変に疲れたことでしょうが無事に旅程をこなすことができました。溝辺ともの家に帰り着いた時の「また行こうとね」との一言で、私は心中密かにガッツポーズを執り、新たな旅行の計画を練り始めました。

ピエロがやって来た!!

４月８日、家族の会代表の中林さんのご紹介でともの家にピエロがやって来ました。ともの家の近くにある八白公園を会場に利用者さん、ご家族、ご近所の方々の参加もあり、大盛況のショーとなりました。

ピエロを演じる香山啓(かやまひろみ)さんは、日本で初めてモスクワの「ボリショイサーカス」で女性ピエロとして活躍された経歴をお持ちの方です。

「介護の現場に笑顔を届けたい」「お年寄りや障害者の方と笑顔でコミュニケーションを取りたい」「福祉の現場へ笑顔と幸せを届けるのもこれからの私の役割です」と言われました。香山さんは言葉通り、私たちに笑顔と幸せを届けてくださいました。観客を交えながら進行していく出し物は会場の笑いを誘いました。

利用者さんや地域の皆さん

アシスタントとして活躍中の利用者さん(右)

ともの家の利用者さんも積極的に参加され、皿回しのアシスタントとして活躍される方もおられました。皆さん出し物が成功する度に手を叩かれ、目をキラキラと輝かせながらショーを見ておられました。

ショーが終わり、帰ってからも利用者さんの興奮は冷めやらぬ様子で「よかったね！」「ええね、元気やね！」「あんなん、私はようせん！」と口々にショーの感想をもらしておられました。

会場となった八白公園には、桜の花が咲き乱れており、お花見気分も味わいながら最高の思い出づくりができました。

取材：高市美紗(広報委員)

法人外研修　報告

「後悔先に立たず。百聞は一見に如かず。実感」　　小規模多機能ホームともの家
山岡理紗

平成 24 年 3 月 21・22 日に島根県出雲市にある【社会福祉法人ことぶき福祉会】に行かせていただきました。内容は、施設見学、意見交換会、懇親会です。1987 年から小規模多機能型老人ホームを開設するなどの取り組みを行われている法人です。
詳しくはコチラをどうぞ→　ＨＰ　http://www18.ocn.ne.jp/~k-fukusi

早朝松山を出発し、しまなみ海道経由で片道約 6 時間の車移動。後部座席で車内の会話を聞きながら珍道中になることは間違いないということと、出雲大社（＝良縁）のことばかり考えていた私。(…後にしっかり反省させられました。)

ともの家の職員は、それぞれ事前に議題を提出していましたので、それらの事項について真剣に、意見交換に臨みました。他法人の方々との意見交換自体が、初めてだった私は、自分の言いたい事なのに的確に伝えられず「軍手をして床に落ちた針を拾うような感覚」と闘いながら、何とか自分の意見を述べました。
その結果、もっと事前学習しておくべきだった…と【後悔先に立たず】。反省や課題の多い研修でしたが、得るものも多い研修でした。【百聞は一見に如かず】という言葉を思い出しながら帰りの車中では、「明日の勤務（遅出）で夕食は何を作ろうかな。」と考えている間に松山に到着。明日から、参加した３人の職員それぞれが、今回の研修で得たものを活かしていきます。

↑意見交換会

↑蕎麦屋で懇親会

↑来たれ良縁!!

↑車から変な音が…

ことぶき福祉会の皆さま、ともの家関係者の皆さま
このような機会を与えて下さりありがとうございました。

ともの家職員アンケート

質問：「介護」という職業に就いた理由は何ですか？

※紙面に限りがあるため、答えていただいた内容の主旨を掲載させていただきました。

●身内が要介護状態になったことをきっかけに介護という職業に就いた

・母親が一時的に介護が必要になり、介護とはどのようなものか知りたくなった。
・認知症の祖母の最期を看取ったとき、高齢者福祉に対して疑問をもったから。
・親が認知症になり亡くなったが、遠くにいて何も出来なかったから。
・祖母がアルツハイマーになり特別養護老人ホームに入っていた時に見た介護現場にショックを受け、自分が温かみのある介護士として老人のお世話をしたいと思った。
・叔母の介護をした経験から、やりがいを感じたから。
・父親の介護がきっかけ。　・母親の介護がきっかけ　・義姉の介護をきっかけ。
・祖母が障害を持っていて、その祖母のために何か力になれればと思ったから。
・２人の父の介護をして、何の知識もなく本を頼りに悪戦苦闘し、これでは次に母の時に大変だと思ったから。

●自分に適した職業だと思った

・自分の性格を出して出来る仕事だと思ったから。
・子供のころからお年寄りの話を聞くのが苦にならなかったので年を経て自分に向いているのではと思った。
・以前の接客業でお年寄りと多く関わる機会があり、ヘルパーさんと一緒にいることが多く、私もしてみたいと思った。
・以前の職場も接客業で人との関わりや人と接することは好きだったため。
・高校の時担任の先生に「あなたは優しい子だから介護がむいてると思うよ」と言われた。
・他の職業も体験してみて一番合ってると思ったから。
・自分を見つめ直した時に「介護」の仕事しかないと思ったから。

●専業主婦からの再就職先として

・「入りやすい」「私にもできるかな」と思った。
・知人から「あなたは笑顔がいいしお年寄りに好かれるよ」といわれた。

●様々な思いやきかっけ

・人の喜ぶ姿、笑顔が好きでお年寄りの喜ぶ姿をみて、もっとこの人達の力になれればと思った。
・人の幸せにつながる仕事をしたいと思っていたから。
・福祉の学校を出ていた妻の勧め。
・ともの家の様子を見てやってみたいと思った。
・ヘルパー２級の実習先がともの家で「働きませんか」と声をかけてもらった。
・両親が共働きで祖父母に育てられたことと、学生時代に特養で実習した経験から。
・「やりがいのある仕事」を探していた時に出会った。
・これから先、社会的に必要だと思ったから。
・ハローワークで紹介された。
・仕事がなかなか見つからず相談した人にすすめられた。
・周りの勧めもありやってみようと思った。将来両親が老いた時に何かの役に立つかなぁと思ったから。

…… ご協力いただいた職員のみなさん、ありがとうございました。……

春はやっぱり…

3 月 30 日に小規模多機能第２ともの家、4 月 9 日に小規模多機能ともの家それぞれで行われたお花見の様子です。場所は両事業所、石手川沿いの公園。

春の光や風、草木のにおいは五感を刺激します。また外で食べるお弁当の美味しさは、格別のもの。再び巡ってくる春ですが、お年寄りにとってはさいごの春になるかもしれません。その時その瞬間を、存分に楽しんでいただきたいと思います。

小規模多機能ともの家は、5 月に吉海町のバラ園に出かける予定です。今から楽しみにされている利用者さんもおられますので、楽しい外出にしたいと思っています

文：山岡理紗（広報委員）

管理者からのメッセージ　～part４～

今回は【小規模多機能ホーム第２ともの家】の管理者です。
産休に入る前にメッセージをいただけました。

永和里佳子

７月より新しく、小規模多機能ホーム「第二ともの家」の管理者として就任し、日々創設の苦しみと忙しさに追われながら、お年寄りとともにあることの楽しみや喜びも感じています。最近思うのは、相手に心開いてもらうことと、自分がその人のために使った時間とは比例する、ということです。私たちは「福祉：介護」を職業としていますが、仕事として関わる以外に、どれだけその人のことを考えているか、が大事になってくると思います。それは相手を「対象」としてではなく、「人間」として見ているか、にかかわってくるからです。また、介護が必要になってからではなく、以前からその人について知っておくことが大切だと、ひしひしと感じています。生まれ、老いていく過程の中で本当にその人の一生を捉え、支えようとするならば目の前にいるのは「要介護状態にある認知症高齢者」ではなく、生い立ちと名前を持った一人の人間であることを忘れてはいけないと思います。

この仕事に就いて、命や幸せについて考える機会を与えられたことに感謝しつつ、多くの人に支えられ教えられながら歩む日々が続いています。管理者としても、人としてもまだまだ「道程」にいることを忘れずに。

ありがとう欄

〇39 号で排泄介助の際に使用するための、不要になった布が足りなくて困っていますと掲載し、ご連絡またはお持ちくださった皆様ありがとうございました。

〇お花クラブの松下先生、ピアノ演奏の越智先生ありがとうございました。

編集後記

40 号編集中に愛媛新聞(４月８日)の記事が気になりました。「介護職７割処遇に不満」という見出し。ともの家の処遇に不満があるから、ココに書いたわけではありません…決して。不満があるのなら、改善すべく動かなければならないのではないかと思ったからです。〇〇という事実を目の前にどう動くか、それが大切なことのように思います。その記事では【やりがい】について「とても感じる」「ある程度感じる」が８割以上と書かれていました。だからこそ嘆くばかりではダメなのだと。山岡(小)